

II 特別連載 II

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第333回

さくらサイエンスプログラム (SSP)

インドネシア同窓会をジャカルタで開催

科学技術振興機構 (JST) とさくらサイエンスプログラム (SSP) インドネシア同窓会 (SAAI) の共催で12月18日、インドネシアのジャカルタで第4回インドネシアさくらサイエンスクラブ同窓会「Reconnecting SAAI: Tighten Alumni's Connection with Japan」が開催された。

今回はコロナ禍で約3年ぶりにオンラインではなく現地での同窓会開催となり、首都ジャカルタを中心にボゴールやバンドンなどインドネシア各地から83名の同窓生が同窓会に出席した。

同窓会では、Mr. Kadek Hendra Darmawan 同窓会幹事長から、同窓会を開催することにより同窓生のネットワークを活性化させたい旨が述べられた。

最初に金杉憲治在インドネシア特命全權大使から、インドネシア同窓生によるネットワークが日本とインドネシアの関係を強化する



謝意を示す Dr. Juandanisyah, M.A.



金杉 在インドネシア特命全權大使



同窓生同士の交流



同窓生による討論

ことを期待する等が述べられた。続いて、Dr. Juandanisyah, M.A. インドネシア教育文化研究技術省出版コミュニケーション部長から、SSPによるインドネシアの若者の日本での科学技術の経験の機会に対して謝意が述べられた。

◎ 同窓生による討論

Mr. Kadek Hendra Darmawan 同窓会幹事長の司会により SSP で訪日した同窓生代表3名から各自の訪日の経験が紹介され、訪日時に経験した日本での大学の研究室における交流や他の研究機関の訪問等を通じた科学技術の経験の有意義性や、同時に日本の社会や文化に触れて日本を好きになったこと、自国に帰国してから再度の訪日の機会を考えると、大切にしたい等の討論が行われた。また、SSP が自分のキャリアパスに大きなインパクトを与えたこと、同窓会への出席により日本への留学や研究のモチベーションがさらに高まり、また、新たな友人を得ることができるので、同窓会の開催は大変有意義であることなどが話された。

日本学生支援機構 (JASSO) インドネシア事務所の Ms. Rini Hanani Suyu 教育アドバイザーからは、日本への留学について具体的で有益な情報提供が行われた。

同窓会幹事団が企画したゲームにより、出席した同窓生同士が新たに知り合いとなる機会が生まれ、同窓生のネットワークが強化された。出席した同窓生からは、「同窓会は素晴らしい機会であり有機的なネットワークングセッションである」「次回の同窓会が待ちきれない」「日本への留学の思いが強くなった」「次回もまた出席したい」等の声が聞かれた。また、JASSO からの日本への留学に関する情報は非常に有益であったとの声が多数寄せられた。

JST

オンライン大学訪問「明治大学」

科学技術振興機構は12月17日、明治大学との共催により「オンライン大学訪問」を開催した。今年度7回目の開催となる。

歓迎の挨拶で大六野耕作学長より141年前に創立した大学のみならず、東京を中心としたキャンパス展開による都市型大学、約60カ国からの留学生を迎え入れ、グローバル化を進めているなど、同大の主な特徴が紹介された。また科学技術の関係では、急速に変化する社会構造に対応できるよう、先進技術研究に豊富な一般教養講義を組み合わせた取り組みを様々な分野で取り入れていることも詳しく説明された。

同大国際連携機構の仲谷特任講師の進行で、まず同機構日本語教育センター長、文学部の山田亨准教授より大学の基本情報及び海外からの留学生対応に関する説明がなされた。大学設立の歴史から基本数値、また留学生の受講できる英語カリキュラムから奨学金制度に至るまで丁寧な解説があった。続けてフィリピン、インドネシア、ベトナムからの留学生を交えて、山田准教授のリードのもと、日本で

が撮影した写真を用いながら視聴する学生の関心を引くような様々なエピソードや学校生活などが留学生より紹介された。

今回のメインイベントとなる特別講義では理工学部機械工学科の納富充雄教授より「Shape memory alloy」について、形状記憶する合金の種類やその構造について、実際の実験状況の動画を使用し、金属の構造図詳細を示してわかりやすい講義を行った。また宇宙航空研究開発機構(JAXA)「はやぶさ」にて小惑星ITOKAWAからのサンプル回収ミッションの成功に形状記憶合金が一躍を担った使用事例について詳細に解説された。

さらに日本学生支援機構(JASSO)から、日本で学ぶための基礎知識の紹介。最後は、納富教授の講義に関し「金属の種類や合金の組み合わせによる形状記憶の可否」や留学生に「学業とアルバイトの両立について」などの質問が寄せられ、丁寧な回答がなされ、全プログラムを終了した。

同イベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブ(「さくらサイエンスプログラム」ウェブサイト)において公開している。



大六野学長



納富理工学部教授



Q&Aセッション